

## (仮称)町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン重点事業候補の検討について

### 1. 北部丘陵の現状と成果

町田市北部丘陵活性化計画の策定後、計画の実現に向けて各種事業を実施してきました。(詳細は第 1 回検討委員会 資料 4-1 参照) 主な成果は次の 6 点です。

#### ①駐車場や休憩施設等の多機能なサービス施設の設置

- ・2013 年 9 月に開設した「小野路宿里山交流館」は、2016 年 5 月に来場者が 10 万人を超えました。

#### ②里山環境再生協働事業の実施

- ・2005 年度より里山環境保全再生協働事業として鶴見川源流保水の森および小野路町奈良ばい谷戸の保全再生を継続し、2015 年度には、奈良ばい谷戸が「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に町田市内で初めて選定され、環境省が所管する「重要な里地・里山」にも選定されました。

#### ③農地あっせんの実施

- ・2011 年 5 月より「農地利用集積円滑化事業」を開始し、2016 年 4 月 1 日現在約 14ha の農地あっせんを実現しました。

#### ④丘陵の地形を活かした農地の改善や農道の整備

- ・2016 年 4 月 1 日現在、農地整備を約 10,000 m<sup>2</sup>、農道整備を総延長約 3,000m 実施しました。

#### ⑤緑農環境再生協働事業の実施

- ・2012 年 3 月より下小山田町で小山田小学校関係者及び地域住民を中心とした「小山田の森委員会」を、2012 年 2 月より小野路町で地域の農業者を中心とした「木こり応援隊」を、2013 年 1 月より上小山田町で田中谷戸街づくり協議会を中心とした「ヤマツツジの里」を、市民協働事業として実施しています。

#### ⑥北部丘陵の情報発信

- ・2012 年度より「キラリ☆まちだ祭」にブースを出展し、市庁舎 1 階イベントスタジオでの展示(概ね 2 週間程度)も始めました。また、2014 年 1 月より町田市観光コンベンション協会と連携し、北部丘陵で行われるイベント情報をコンベンション協会ホームページにて掲載していただいています。

## 2. 現状の主な課題

各種事業が実施され、事業にかかわる部分での一定の成果が見られる一方で、北部丘陵全体を見渡すと課題もみられます。

第1回検討委員会での意見を踏まえながら、北部丘陵の現状の主な課題について以下のように整理します。

### ①拠点の整備が十分とは言えない

- ・2013年9月に開設した「小野路宿里山交流館」は、これまでの来場者が10万人を超え、地域の活性化に貢献していますが、他の地域では整備が進んでいません。

### ②貴重な谷戸や里山の保全を促進する仕組みが十分ではない

- ・「源流・保水の森」「奈良ばい谷戸」では、NPOとの協働により保全に取り組んでいますが、厳しさを増す財政状況に対応した保全費用の確保が必要とされます。

### ③山林の維持管理や利活用が進んでいない

- ・農地については、「農地利用集積円滑化事業」により市有農地を中心に利活用を進めていますが、山林については、「源流・保水の森」「奈良ばい谷戸」を除き、維持管理や利活用に向けた具体的な取り組みがほとんど進んでいません。

### ④住み続けられる環境としての整備が不十分

- ・生活空間の整備として道路については、複数の路線で整備に向けた協議を実施していますが、完成までには長期間を要するため、整備が十分とは言えません。

### ⑤様々な事業や活動の担い手相互がつながりをつくる仕組みがない

- ・各種事業を実施していますが、個別の事業や担い手相互をつなぐ仕組みが十分でなく、北部丘陵全体として十分な情報共有や相乗効果が図られていません。

### ⑥情報発信が十分とは言えない

- ・北部丘陵内で活動する団体の中にはインターネット等を活用して積極的に情報発信を行っているケースもありますが、今後はこれまで以上に、北部丘陵の魅力をさらに効果的に発信していく必要があります。

## アクションプランの考え方

現状の課題を早期に解決するために、いくつかの重点事業を想定します。

### 拠点

#### ①新たな交流・回遊拠点を整備する



### 緑(谷戸・里山・山林)

#### ②貴重な里山の保全を促進する



### 緑(谷戸・里山・山林)

#### ③山林の維持管理や利活用を図る 仕組みをつくる



### 生活・なわい

#### ④住み続けられる環境の向上を進め る



### コミュニティ・ネットワーク

#### ⑤持続的なまちづくり検討のプラット フォームをつくる



### 情報

#### ⑥北部丘陵での活動や魅力の効果的な情 報発信を行う



## 新たな交流・回遊拠点を整備する

### 【概要】

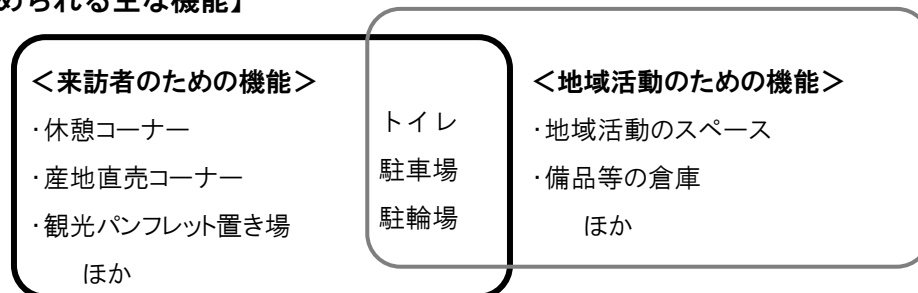
#### ◆課題

2013年9月に小野路宿里山交流館がオープンし、これまでの来館者が10万人を超えるなど北部丘陵を散策する来訪者の休憩施設等として多くの方が訪れています。拠点整備によって活性化が期待できることが明らかになりました。町田市北部丘陵活性化計画では、こうした交流・回遊拠点を北部丘陵内に4か所整備する計画ですが、現状では小野路宿里山交流館以外の整備は進んでいません。

#### ◆重点事業の概要

来訪者の回遊の拠点となるとともに、山林・農地を維持管理する担い手等の拠点となる施設を北部丘陵内に複数カ所整備する。小野路宿里山交流館の成果を踏まえつつ、来訪者を呼び込むこと等を考慮しながら新たな整備カ所を検討します。

### 【施設に求められる主な機能】



## 貴重な里山の保全を促進する

### 【概要】

#### ◆課題

北部丘陵には、美しい丘陵の風景が残る里山が複数存在します。中でも「源流・保水の森」や「奈良ばい谷戸」では、市とNPOの協働により里山の保全が進められています。今後、こうした取り組みを促進しながら、保全費用や新たな担い手を確保する手法を検討することが必要となっています。

また、法制度を活用した区域指定等による確実な保全を検討する必要があります。

#### ◆重点事業の概要

自然環境の資質が高く保全が望ましい里山については、適切な維持管理を促進するための取り組みを進めます。

例えば、収穫した農産物の販売や環境学習体験プログラムの実施等により、里山の管理者が自ら収益活動を行うことによって、維持管理の充実を図ることができる仕組みを構築します。また、法制度等を用いた重要な場所の確実な保全や、新たな担い手を確保するための仕組みの導入などについて検討を進めます。

## I 山林の維持管理や利活用を図る仕組みをつくる

### 【概要】

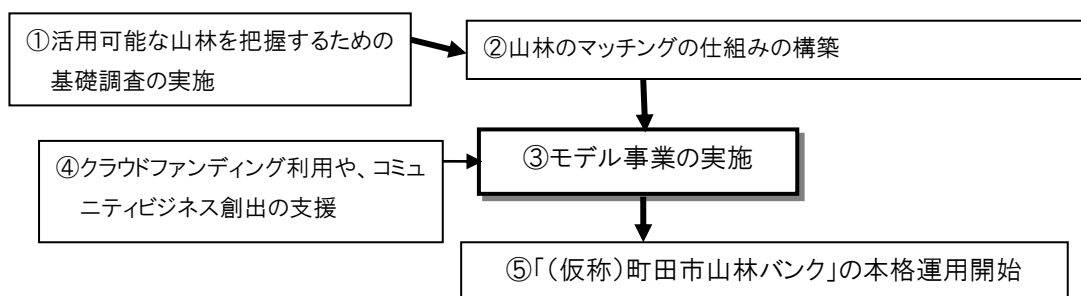
#### ◆課題

「農地利用集積円滑化事業（農地あっせん事業）」の実施等により、市有農地の活用率が5割を超え、農業研修農場の卒業生が北部丘陵内の農地で就農を行うなど、農地の利活用が進んでいます。しかしその一方で、北部丘陵内で大きな割合を占める山林については、その維持管理や利活用が思うように進んでいません。

#### ◆重点事業の概要

活用されず維持管理が行き届いていない山林を、山林の維持管理をしたい人や、山林の維持管理を行いながらその自然環境を活用した取り組みを実践したい個人や団体に対して地権者との橋渡しを行う仕組みを構築し、山林の維持管理や利活用を促進します。

まずは、基礎調査や地権者の意向を踏まえてモデル事業を行い、その成果を見極めながら「（仮称）町田市山林バンク」の本格運用を目指します。



## I 住み続けられる環境の向上を進める

### 【概要】

#### ◆課題

北部丘陵は大半が市街化調整区域であること等から、生活空間としての整備が十分といえる状況ではありません。道路整備については、現在市道忠生 579 号線や都道 155 号線などで協議を継続していますが、都市基盤の整備に関わる事業は完成までに長期間を要するため、実質的な整備には至っていません。

#### ◆重点事業の概要

農地の改善や農道の整備等による営農環境の改善、生活道路、幹線道路の整備等による交通アクセスの改善など、地域の生活の質を高めるための基盤整備について、今後とも継続的に検討し、可能なものから順次実施していきます。

また、生活道路や幹線道路の整備に伴う沿道の土地利用をはじめとした地域の街づくりを、市民と市の協働により進めていきます。

## Ⅰ持続的なまちづくり検討のプラットフォームをつくる

### 【概要】

#### ◆課題

町田市北部丘陵活性化計画の策定以降、各種事業を実施する中で、これまでの担い手に加えて、新規就農者や北部丘陵に関心を持ち活動する団体が現れるなど、ここ数年の間に多様な担い手が増えつつあります。しかし、個別の事業や取り組みをつなぐ仕組みが十分ではなく、北部丘陵全体として十分な情報共有や相乗効果が図られていません。

#### ◆重点事業の概要

検討委員会を2016年度以降も定期的に開催し、アクションプランの進捗状況の確認や中期的な課題について継続的な検討を行います。

今後、検討委員会に北部丘陵内で活動する団体等も加わることにより組織を発展させ、活動主体間の情報交換の場としてプラットフォーム「（仮称）北部丘陵まちづくり推進会議」を立ち上げます。

## Ⅰ北部丘陵での活動や魅力の効果的な情報発信を行う

### 【概要】

#### ◆課題

北部丘陵内では、様々な活動が行われており、それらの団体の中にはインターネット等を活用して積極的に情報発信を行っているケースも見られます。しかし十分な情報発信が行えていない取り組みもあります。今後は、北部丘陵の魅力を効果的に発信していくことが必要となります。

#### ◆重点事業の概要

北部丘陵内で行われている活動や地域の魅力等を効果的かつ継続的に情報発信していくための方法について、具体的な実践を行いながら、北部丘陵への関心を高めるための取り組みを進めます。

例）・多摩市など周辺地域も含めた歴史文化資源や散策ルート、拠点などのマップ化。

・北部丘陵内で実施している活動やイベント等の情報発信。

・町田市観光コンベンション協会との連携、協会ホームページの活用。 など。